

歴博 くらしの植物苑だより

第129回くらしの植物苑観察会 12月5日(土)

サザンカの楽しみ方

箱田 直紀(恵泉女学園大学名誉教授)

植物の楽しみ方は多種多様です。その中でも園芸といえば、種子や小苗から自分で育て、花を咲かせ実を結ばせて、その間に季節の移り変わりまで味わいながら、ときにはその収穫物のご相伴にもあずかるというのが基本でしょう。しかし、育て方にもいろいろな方法がありますし、あるいは自分で育てなくても楽しむ方法はいくらかでもあります。

今回は、日本で生まれ育った冬の華・サザンカの歴史を背景に、美しい花々につけられた優雅な品種名と、そこに込められた花に対する先人達の思い入れにまで想いを馳せてみましょう。後半は鉢植えに適したサザンカの育て方の話です。

1. 品種の名前を楽しむ

日本の野生植物から生まれたサザンカには、300に達する品種が現存し、それぞれが美しい花を咲かせるだけでなく優雅な名前がつけられています。美しい花に名前をつけるという楽しみ方は江戸時代に発達した日本独特の多くの園芸植物に共通で、それらは花や系統の違いを区別するだけではなくて、品種名の優雅さも併せて日本人の感性に訴えるという重要な役割をはたしてきました。

美しい花に名前をつけるという歴史はおそらくフランスやイギリスなどのほうが早く、バラなどが品種名で呼ばれることはよく知られています。しかし、ヨーロッパやその後のアメリカなどと日本の品種名を較べるとかなりの違いがあります。ヨーロッパなどの品種には花の色を直接表現したものなどは勿論ありますが、憧れのひとや奥さんらしき人など人名に由来するものがたくさんあって、ツバキやサザンカでも同様です。

これに対して日本の品種は季節の変化など自然現象に由来したものが圧倒的に多く、しかも古典文学や和歌から引用した名が特に目立ちます。人名由来の品種名がないわけではありませんが、古いものは多くは古典に関係のある人名のようです(図1、2)。

品種命名のこの違いは、多分に植物へのかかわりかたの歴史的な違いに理由があるように思います。人為的ではなくて自然が作り出したものにより高い価値を意識してきた日本人に対して、ヨーロッパなどでは、自然への評価だけでなく、そこに加えられた人間の努力やその成果こそが高く評価されてしかるべきという考えが根底にあるのだと思います。ですから、花の名前も人と人との関わり、あるいはその象徴として使われてきました。

ところが、日本生まれのツバキやサザンカでも、近年は相当高い比率で人名の品種が増えてきました。背景がどういう人なのかは個々の事情によって違いそうですが、美しい花に憧れの人(男の人名はほとんど無いようですが)や娘の名前をつけたらしい新品種が増えてきて急激に西欧化しています。

2. 鉢植えで育てて楽しむ

日本原産のサザンカが自生しているのは、四国西南部や九州から沖縄ですから、青森県まで自生するヤブツバキの耐寒性にはかきませんが、人が少し手助けをしてやれば東北地方の沿岸部や新潟県などでも十分に戸外で越冬します。関東以西の各地ではどこでも普通に庭に植えられており、生垣によく使われるのは、晩秋から冬に咲くのが、第一の理由ですが、伸びてきた枝を刈り込んでおくとよく分枝してくるのという生け垣に適した性質をもっているためです。

ところで、くらしの植物苑ではサザンカを鉢植えで育てています。厳寒期にかけて花を開くサザンカは関東などではむしろ鉢植えのほうが本領を發揮できるからです。ツバキは昔から鉢植えや盆栽にも仕立てられてきましたが、サザンカも全く同様に鉢で育てられ、ツバキよりよくつぼみを着けます(図3)。

プラスチック鉢に植えるときには土が加湿にならないように鹿沼土や日向土などを混合した粒状の培養土で排水よく植え付けます。植えかえは2～3年に一度が理想的ですが、粒土であれば1～2年遅れても大丈夫です。

枝の剪定時期は庭植えと同様で、花が終わった直後から早春までの間です。枯れ枝を除去し、長い枝は2～3芽を残して葉の上で切り取ります。サザンカの開花期は早いものは10月から、晚いものは2月や3月までも咲くものがありますが、いずれも春から伸びた枝の伸長が止まった6月下旬から7月はじめ頃に枝の先端近くに花芽が分化します。従って、この花芽分化期以降に枝先を切り詰るとせっかくできた花芽を切り落とすことになりす。また、夏に枝先切りつめると、そのあとに元気のよい枝が伸びてきて樹形だけが乱れ、この枝には花が着きません。鉢植えではとくに剪定の時期に注意しましょう。

系 梅 花 大 集			
<p>徳の松<small>ツバキ</small> 田古の舟<small>ツバキ</small> 以海<small>ツバキ</small> 紫雲<small>ツバキ</small> 三ツの津<small>ツバキ</small> 日の出<small>ツバキ</small> 紫雲<small>ツバキ</small> 以海<small>ツバキ</small> 田古の舟<small>ツバキ</small> 徳の松<small>ツバキ</small></p>	<p>大明錦<small>ツバキ</small> 伎童丸<small>ツバキ</small> 鹿の袖<small>ツバキ</small> 名鏡<small>ツバキ</small> 月の舟<small>ツバキ</small> 日の出<small>ツバキ</small> 紫雲<small>ツバキ</small> 以海<small>ツバキ</small> 田古の舟<small>ツバキ</small> 徳の松<small>ツバキ</small></p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">東 雲</p> <p>福大<small>ツバキ</small> 福神<small>ツバキ</small> 福の袖<small>ツバキ</small> 福の舟<small>ツバキ</small> 福の鏡<small>ツバキ</small> 福の月<small>ツバキ</small> 福の日<small>ツバキ</small> 福の紫<small>ツバキ</small> 福の以<small>ツバキ</small> 福の田<small>ツバキ</small> 福の徳<small>ツバキ</small></p>	<p>雪月花<small>ツバキ</small> 至津島<small>ツバキ</small> 程々の舟<small>ツバキ</small> 明石浮<small>ツバキ</small> 東紅<small>ツバキ</small> 銀の糸<small>ツバキ</small> 立白<small>ツバキ</small> 支那の都<small>ツバキ</small> 八重<small>ツバキ</small> 風風錦<small>ツバキ</small></p>
<p>玉孔<small>ツバキ</small> 好錦<small>ツバキ</small> 東錦<small>ツバキ</small> 以海<small>ツバキ</small> 紫雲<small>ツバキ</small> 三ツの津<small>ツバキ</small> 日の出<small>ツバキ</small> 紫雲<small>ツバキ</small> 以海<small>ツバキ</small> 田古の舟<small>ツバキ</small> 徳の松<small>ツバキ</small></p>	<p>千代<small>ツバキ</small> 御所<small>ツバキ</small> 和合<small>ツバキ</small> 福の袖<small>ツバキ</small> 福の舟<small>ツバキ</small> 福の鏡<small>ツバキ</small> 福の月<small>ツバキ</small> 福の日<small>ツバキ</small> 福の紫<small>ツバキ</small> 福の以<small>ツバキ</small> 福の田<small>ツバキ</small> 福の徳<small>ツバキ</small></p>	<p>福包<small>ツバキ</small> 金花山<small>ツバキ</small> 人見<small>ツバキ</small> 福神<small>ツバキ</small> 福の袖<small>ツバキ</small> 福の舟<small>ツバキ</small> 福の鏡<small>ツバキ</small> 福の月<small>ツバキ</small> 福の日<small>ツバキ</small> 福の紫<small>ツバキ</small> 福の以<small>ツバキ</small> 福の田<small>ツバキ</small> 福の徳<small>ツバキ</small></p>	<p>入日<small>ツバキ</small> 相折<small>ツバキ</small> 三光<small>ツバキ</small> 相折<small>ツバキ</small> 丁子車<small>ツバキ</small> 旭<small>ツバキ</small> 玉の都<small>ツバキ</small> 星日<small>ツバキ</small> 好錦<small>ツバキ</small> 玉孔<small>ツバキ</small></p>
<p>上野下北堂島邸 上野辺村百武拾九番地 江戸 ササニユエ</p>	<p>宝合<small>ツバキ</small> 錦の舟<small>ツバキ</small> 錦の鏡<small>ツバキ</small> 錦の月<small>ツバキ</small> 錦の日<small>ツバキ</small> 錦の紫<small>ツバキ</small> 錦の以<small>ツバキ</small> 錦の田<small>ツバキ</small> 錦の徳<small>ツバキ</small></p>	<p>福包<small>ツバキ</small> 金花山<small>ツバキ</small> 人見<small>ツバキ</small> 福神<small>ツバキ</small> 福の袖<small>ツバキ</small> 福の舟<small>ツバキ</small> 福の鏡<small>ツバキ</small> 福の月<small>ツバキ</small> 福の日<small>ツバキ</small> 福の紫<small>ツバキ</small> 福の以<small>ツバキ</small> 福の田<small>ツバキ</small> 福の徳<small>ツバキ</small></p>	<p>根存<small>ツバキ</small> 花の舟<small>ツバキ</small> 花の鏡<small>ツバキ</small> 花の月<small>ツバキ</small> 花の日<small>ツバキ</small> 花の紫<small>ツバキ</small> 花の以<small>ツバキ</small> 花の田<small>ツバキ</small> 花の徳<small>ツバキ</small></p>

図1 江戸のサザンカをまとめた品種目録「茶梅花大集」(1898年)



図2 品種目録の中央に大書された東雲という極大輪の品種



図3 極寒期でも鉢植えにして軒下などに移動するとよく咲き続ける（早乙女）

次回予告 第130回くらしの植物苑観察会 2010年1月23日(土)
「出土資料からみたツバキ」 永嶋 正春(当館研究部情報資料研究系)
13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料